

内視鏡手術支援ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術の実施について



2017年7月、当センターにおける内視鏡手術支援ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術の初症例を、黒田副院長（外科統括部長・消化器外科統括部長・消化器センター長）執刀のもと実施しました。この手術は全国的にも実施できる施設が少なく、兵庫県下では神戸大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院等に次いで当センターが4施設目となります。

現在、胃がんの手術治療には従来からの開腹手術と腹腔鏡下手術がありますが、腹腔鏡下手術では、関節機能がない鉗子、手振れなどから手術操作に制約がありました。

そこで、内視鏡手術支援ロボットを用いることで、完成度の高い3次元画像、手振れ防止機能と7自由度を有する多関節鉗子により、がんの根治性を維持しつつ、術後早期合併症を減らすことが見込まれています。

今回、使用した内視鏡手術支援ロボット「da Vinci」は、2009年に国内で承認、2015年に当センターに導入され、これまで泌尿器科において、前立腺摘出術と腎部分切除に使用し、非常に良好な結果を残しています。

現在、胃がんに対するロボット支援手術は保険適用されておらず、全額自己負担となるため、実際の入院治療費は総額180～210万円となりますが、当センターでは、現在10例の臨床試験を組んでおり、通常の腹腔鏡下胃切除術とほぼ同等の自己負担額で、残りは病院負担とさせていただくことにしています。

今回の手術には、当センターの外科、消化器外科医師や研修医が多数参加・見学し、技術を学びました。

引き続き、このような技術が若手医師に継承されていき、更なる先進医療を提供できる体制の構築に取り組んでまいります。



真剣にモニターを覗きこむ若手医師



説明に聞き入る研修医達



コンソールで3D画像を見ながら操作



多関節の鉗子



足裏感覚も重要なので裸足で操作